

I o T新時代の未来づくり検討委員会 人づくりWG 高齢者SWG（第1回）

○日時：平成29年12月14日（木）10:00～12:00

○プレゼンター

- ・澤岡構成員
- ・鯖江市 牧田様
- ・パナソニックエイジフリー株式会社 森田様

○主な議論

- ・高齢者に対するICT利活用の支援を考える際には、自立している高齢者、介護を受ける高齢者ごとに分類して検討する必要がある。また、後者については、フィジカル、メンタルそれぞれの視点でどのようなICT技術が必要になるか考えるべき。
- ・現在のAIでできることと比較すると、高齢者は日常生活で非常に高度な意思決定や行動を行っている。今後、画像解析などを用いて高齢者の知恵をAIに教育していくことが重要。
- ・現在、すでに高齢者である人と今後高齢者になる人では、同じ年齢でも求めているものが異なるはず。こうした違いを踏まえて政策を検討する必要がある。
- ・退職すると男性は役割を見出せなくなりがちだが、スマホなどのICTは比較的男性にとっては得意分野であり、モチベーションの向上につながる。
- ・「虚弱化」を避けるためには、高齢者にいつまでも引退しないという意識を持たせることが必要（インターネットを使っていた高齢者が、使えなくならないようにサポートすること等）。
- ・介護の場面では、スタッフ側もICTに疎く、スマホ等を使えないことがあり、これに対する対処も必要。
- ・民生委員の活動にも個人情報のカベがある。ICTは高齢者の社会的孤立を防ぐのに有効な一方、見守りが監視にならないようにしなければならない。また、SNS利用や消費者被害などの危険性にも対応が必要。
- ・シニア向けの技術開発にシニア自身が携わるというアプローチも有効。
- ・英国の研究結果に、インターネットの利用者の方が利用者以外よりもヘルスリテラシーが高いというものがある。